

幼稚園で習ったことをもう一度

学生記者 田中佑樹(理工学部3年)

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから始まる「人生の夏休み」(!?)に胸を膨らませているアナタ、第一志望ではなかった…苦い気持ちで入学式を迎えたキミ、さまざまな思いでいることでしょう。

嬉しい言葉は大先輩にお任せをして、中大4年になる私が大学生生活で満足したこと、後悔した点について書いていきます。

フットサルを仲間内で続けています。しかし他学部の人と知り合いになり世界が広がるという意味で何かサークルに入っておけばよかったかなと思います。ただ、この学生記者を通して普段接する機会のない社会人、OBOG、多摩キャンパスの人たちと知り合いになれたのでこれは満足した点です(ちなみに理工学部では私1人で学生記者を細々とやっているのが新入生絶賛募集中です)。

次にアルバイトです。1年の5月から塾講師をしています。周りはほとんどが同世代の大学生。中大とはまた違ったカラーをもつ人たちと接することが、いい刺激になっています。

1年次はただ稼げればよいという非常に現実的な気持ちで働いていました。2~3年になるとノウハウがつかめてきました。授業内の雑談も大事と知る。プリントなどにアレンジを加えるようになり、授業をするのが以前より楽しくなりました。そうしたら生徒のモチベーションも上がってきました。

授業への接し方で内容が変わる。自分が変わる。生徒がよくなる。これは有益であったと思います。

東日本大震災のボランティアをしました。1週間の滞在でしたが人生観が大きく変わりました。瓦礫の撤去作業で地中から出てきた卒業アルバムやおもちゃの野球バット。震災で多くの人たちが被災したという事実を改めて実感するとともに、私たちが瓦礫、瓦礫と言っているそれは瓦礫なんかではなく、被災された方々の思い出にほかならないのだということ。被災地において、当たり前なのが肌で分かったと思います。



宮城県石巻市にて。筆者左

高校までは成績がその人の能力全てを表していたように感じます。しかし、大学に入ったら「人に優しくする」、「人の話をよく聞く」など幼稚園で習ったことをもう一度試されるような気がします。

これは社会に出てさらに必要になるはずです。以上、私の大学3年間を振り返った感想です。この中で1つでも皆さんが大学生活を楽しくするための参考になれば幸いです。

上手くいかないと感じる あなたへ

学生記者 中野由優季(法学部4年)

春は圧倒的なエネルギーを持つ。植物があたかも喜ぶように咲き誇り芽吹くことは、この言葉を大きく象徴する。これは人間にとっても同じこと。「始まる」ことへの期待は、人を明るく積極的にさせる。

若さという武器のほかに、大学生が持つものは何だ。時間だ。夢に向かって勉強する人もいるだろう。部活動に捧げる日々を送る人もいるだろう。そのどちらでもない、一時的に目標を失った私には、これでもかというくらい自由時間があつた。

残念なことに、私にとって中大入学は、“満開のサクラ”ではなかった。だが、悔しさもまた、人を奮い立たせる原動力となる。「目標を達成できなかった自分」のまま、社会人にはなれないと思った。

私が入学式で決意した目標は2つ。①興味を持ったことは全部やってみる、②色んな人と話す。

四度目の春、過去を振り返って、満点とまではいかないが70点は付けられる頑張りであったと評価する。勉強にアルバイトに2~3つのサークルに旅行…それなりに忙しく、楽しく過ごしてきた。

「目標にするだけなら簡単だが、実際できることは限られている。私にはやりたくても出来ないことばかりだ」もしかしたら、そう考える人は少なくないのかもしれない。「できるひと」と「上手くいかない自分」の間には、明らかに違う“何か”があるのだと。

明らかに違う“何か”とは、なんだろうか。

私は、“個性の把握”だと思う。自分の興味や長所を把握し、目標設定に生かす。それだけで、出来ることは何倍も増える。

例えば私の“個性”は、「人が好きで好奇心旺盛」。仮に、目標を「継続」にしていたら、私はきっと頑張れなかったであろう。目標はいつしか「続けなきゃ」という義務に代わり、楽しさを失い、結局やめてしまうのだ。

まずは自分の得意なことで目標を立てよう。せっかく努力するのなら、達成できそうな分野にする。そして、次は少し苦手な、しかし身につけておいた方がよいことを目標にする。「興味があることには一通り手を出してみて、そのなかで特に楽しかったこと

は続けていこう」というように。

何かの資格を取るのだっていい。そのとき私なら、「～をしたいからその資格が必要」という動機付けをする。自分の好奇心を満たすための勉強なら続けられる。

要は、自分のモチベーションを支配している者が「できるひと」なのだ、私は思う。「できるひと」になるために、私は自分の好奇心を刺激し続けることを目標にする。

新入生に、声を大にして言いたい。「大学生活は、自分のやる気を支配する目標を立てて、挑戦せよ！」素晴らしい大学生活になりますように。



窓際の日向ぼっこが
大好きな愛犬ボン

学生記者になりませんか？

『HAKUMON Chuo』は中大生が取材・編集する大学広報誌です。
現在、学部在生を対象に学生記者を募集しています。



鍵谷投手のドラフト指名会見で取材する学生記者たち
(中大ボード前の3人)日本ハムの新人投手を応援しよう

- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方はじめ添削指導を基礎から受けることができます。将来どんなキャリアをめざすにも文章力が重要です！
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。

お申し込み・お問い合わせ

中央大学広報室『HAKUMON Chuo』 編集担当：久保田茂信

Phone：042-674-2048(直通)

E-mail：skubota@tamajs.chuo-u.ac.jp